

081 江戸時代

鎖国政策の動揺

オランダ商館長(2隻・年1回来航)

→年1回江戸へ。オランダ風説書 提出

レザノフは上級貴族で、露米会社というオホーツク海・アラスカ開発の国策会社の長でした。オホーツク海世界は穀物が取れず食料不足に悩まされていたので、ロシアは日本から食料輸入を希望。

五代 綱吉	柳沢吉保	オランダ商館医 <u>ケンペル</u> 綱吉に謁見 →帰国後『日本誌』 日本に関する政治・経済・地理・動植物など初めて体系的にまとめたもので哲学者カントやゲーテも愛読。鎖国を称賛した書です。 後に <u>志筑忠雄</u> が『鎖国論』と翻訳。 西川如見『 <u>華夷通商考</u> 』 通商の世界地理書
六代家宣、七代家継	新井白石	イエズス会宣教師 <u>シドッチ</u> が <u>屋久島</u> に潜入→捕まり江戸へ→新井白石が尋問 新井白石『 <u>采覧異言</u> 』 シドッチ尋問で得た西洋地理書。公開。 新井白石『 <u>西洋紀聞</u> 』 西洋研究書。非公開。長助・ハル夫婦
八代吉宗	大岡忠相	<u>漢訳洋書輸入の禁の緩和</u> → 野呂元丈、 <u>青木昆陽</u> にオランダ語習得
十代 家治	田沼意次	仙台藩医 <u>工藤平助</u> 『 <u>赤蝦夷風説考</u> 』 蝦夷地開発が急務 → <u>最上徳内</u> を <u>東蝦夷地</u> 探検に派遣
十一代 家齊(在職50年)	松平定信	<u>クナシリ・メナシ</u> の戦い アイヌが松前藩に反発 松平定信「怒ったアイヌがロシアに協力を求めて、ロシア軍が攻めてきたら、松前藩なんか吹っ飛ばさず…」 →一定信はアイヌがロシアと結ぶことを危惧しました。 仙台出身 林子平『 <u>海国兵談</u> 』『 <u>三國通覧図説</u> 』 版木没収 ロシアによる侵略の危険警告の書→松平定信により処罰 ロシア皇帝エカテリーナ2世が派遣した国家使節 <u>ラクスマン</u> が <u>根室</u> に来航 漂流民 <u>大黒屋光太夫</u> を伴い通商要求。 →長崎交渉の進捗を与えたが、通商要求は拒絶。定信は「平和にきた異国を冷たく追い返すのは朱子学の礼儀に反する。江戸は×だが長崎通商は認めてやるか…」 定信、海防ができていないことに深い危機感 <u>近藤重蔵</u> を <u>東蝦夷地</u> 探検に派遣 ベテランの最上徳内も同行 →択捉島に <u>大日本忠臣呂府</u> の標柱建てる ロシアに取られる前に日本領を宣言 松前藩の <u>東蝦夷地</u> を <u>上知</u> して直轄領 対ロシア外交は松前藩には荷が重いから。知行地を召し上げること。別の土地を与える。

十一代家齊の御所時代(定信補佐は最初の6年間のみ、50年在職)

ロシア使節 レザノフ、長崎 に来航

ラクスマンの長崎交渉の進捗を持っていたので、レザノフはウキウキでしたが、定信は尊号一件で失脚していて、幕府は冷淡に追い返しました。レザノフは激怒「長崎の防衛は大したことなかったぞ、軍艦2隻もあれば…」という発想になりました。

北海道全部を幕府直轄領 松前藩は陸奥3万石に移封(泣)

→ 松前奉行 を設置 北海道総督。ロシア問題 月番交代、定員4名

レザノフ、部下を派遣して択捉島で銃撃戦
幕臣の間宮林蔵隊が目覚ましい反撃

間宮林蔵、樺太探検、間宮海峡発見

フェートン号 事件

イギリス戦艦1隻がオランダ国旗を掲げて長崎に入港、国旗を英国旗に変えて出島のオランダ人2名を人質に取り、日本国を脅迫して略奪し悠々退去とした事件。幕府直轄領長崎の警備は幕府と佐賀藩の軍役が担当していたが、なすべがなかった長崎奉行の 松平康英 は国威を傷つけられた責任を感じて切腹。佐賀藩主は引退させられました。当時英蘭戦争中でした。

幕府が報復で ゴローウニン 拘束 クナシリ島 ロシア海軍大佐

ロシアが報復で 高田屋嘉兵衛 拘束 北前船のタイショー

「人質は1人で十分だろう？部下は解放してほしい」。嘉兵衛の人柄にロシア水兵たちは敬意をこめてタイショー(大将?)と呼ぶようになりました。リコルドは嘉兵衛に「ガローウニンという人を知らないですか?」「ホワーリンなら知っていますが!」「その人なら健在でしたよ」冬が明けた翌年「私を日本に返してください。ホワーリンさんの解放交渉に幕府の松前奉行所に行ってください」部下「そうやって逃げる気かも」「タイショーに逃げられたらほかに手段が!」リコルド「私はタイショーを信じる!」1か月後「雪原の向こうから近づく人影が!」「数は!」「2人!」

フェートン号事件への怒り・二念無く迷わず撃退せよ。

異国船打ち払い令 (無二念打ち払い令)

シーボルト 事件

長崎に蘭学塾 鳴瀬塾。塾生には 高野長英 や 高橋景保。シーボルトは70歳の渋川春海にも会い、大いに尊敬した。

→日本地図を与えた天文方 高橋景保 死罪

モリソン号 事件

アメリカ商船が通商を求めて漂流民を伴って 浦賀 に来航。友好を示すため武器を外して来航しました。しかし 異国船打払令 で撃退。後に オランダ風説書 でモリソン号は憎きイギリス船ではなくアメリカ船であること、商船に過ぎなかったのに撃沈できなかったことを知り、幕府は自分のしたことと力の無さに激しく動揺しました。

蛮社の獄

モリソン号事件を批判した 尚齒会 を弾圧

- 渡辺華山 『慎機論』 田原藩家老。逮捕前に切腹
- 高野長英 『戊戌夢物語』 脱獄して7年間全国逃亡

081 江戸時代

鎖国政策の動揺

豊臣政権時代 徳川家康の 256 万石は家康個人に与えたもの。
家康だって、自分の跡継ぎとして徳川秀忠を豊臣秀吉に会わせて、
256 万石の跡継ぎとして認めてもらっていた。だから秀吉は、
徳川秀忠を自分の未来の家臣として認めて「秀」の字を与えた。

1657 年 明暦の大火 (振袖火事)
→江戸城全焼。正之、江戸城再建しない決定。
被災した町人の復興費用に充てた。

寛文

②

主

(



美事城の本丸は
石垣だけが残る
か、堀削し
皇居で自由見学
で良まず

↓
主君ではなく主家に仕える新しい
主従関係に切り替えた。

∴ 殉死は忠義ではなく、不忠になる。

1651 年 徳川家光死去。家綱は 11 歳と幼少。

家光の弟の 保科正之 が補佐。

1651 年 慶安の変 (由井正雪の乱)

兵学者の牢人 由井正雪 が牢人を
率いて蜂起。

正雪は優秀な兵学者で、幕府から仕官の話を何度も断り、
牢人問題の解決に向き合った。幕府が聞く耳を持たず→
蜂起を決意。正雪の決起理由書が共感を集めた。

保科正之、文治政治 へ転換。
武力によらない政治

① 末期養子の禁の緩和

※末期養子の禁

大名が跡継ぎのないまま死ぬと改易となる
子どもがない大名は幕府に養子を届けておく
子どものない大名の末期養子は禁止された

↓
大名が危篤状態になって急に遺言で養子を取ること。

幕府「その遺言は本物かね?！」

幕府「悪い家臣が都合がいい養子を立てたんじゃないかね?！」

幕府「知行地は大名個人に与えたものだ。將軍の許可なく勝手に
他の者に譲るのはおかしい(正論)。」

③ 大名有力家臣からの 証人 の廃止

これまでは、大名の妻子だけでなく有力家臣の
妻子も人質に取っていた→大名の妻子だけで可

④ 諸大名に一齐に 領知宛行状 発行

→將軍徳川家綱の権威確認。

⑤ 保科正之引退、酒井忠清 が大老就任。
下馬將軍として絶大な権勢をふるう。

諸藩の文治政治

諸藩でも文治政治がはかられた。

① 池田光政 (岡山藩)

陽明学を学んだ武士 熊沢蕃山 を登用

藩校 花畠教場 郷学 閑谷学校

② 徳川光圀 (水戸藩)

081 江戸時代 鎖国政策の動揺

明から日本に亡命した 朱舜水 を招く。

幕府正史 林羅山・鷲峰『本朝通鑑』に反発。

→神話を否定。南北朝は並立。

徳川光圀、江戸の彰考館で『大日本史』

→天皇神格化、南朝正統。

③ 前田綱紀 (加賀 100 万石。城下町…金沢)

朱子学者 木下順庵 を招く。文化奨励。